

I. 研究主題

自ら 考え学び合う子の育成

～ 数学的な見方・考え方を働かせ、考えることを楽しむ 算数科の授業づくりを通して ～

II. 研究主題設定の理由

本校ではこれまで、「自ら考え、学び合う子の育成」を研究主題に据え、算数科の授業づくりを通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現を目指してきた。特に、個人思考を出発点とし、児童が自ら学習形態を選択する授業への転換を全校で進めるとともに、見方・考え方を意識した教材研究や、見取りを基にした支援の充実、さらにはアワ～ツタイムの継続的な実施によって、児童が安心して学びに向かう基盤づくりに取り組んできた。このような取組を通して、児童一人一人が主体的に学習に関わる姿の育成を図ってきた。

その結果、児童が自ら学び方を選択しながら課題解決に取り組む姿勢が育ちつつあり、「自分で考え、自分から取り組んでいる」と肯定的に回答した児童が高い割合を示すなど、主体的に学習へ向かう態度の高まりが見られた。また、見方・考え方を意識した授業づくりの推進により、既習との関連をもとに考えようとする姿や、他者の考えに触れて自らの考えを修正・深化させる姿も見られるようになってきた。さらに、見取りを生かした支援の充実や、話し合いの基礎となる態度の育成も進み、協働的な学びの土台が形成されてきている。一方で、協働の場面が考えの共有にとどまり、比較・統合して深める段階まで至らないことや、見方・考え方を単元を通して一貫して働かせることの難しさ、さらには個に応じた適用問題の充実や、アワ～ツタイムと授業との接続の弱さといった課題も明らかとなった。これらのことから、児童が見方・考え方を自ら働かせながら、考えを深めていく学びの質を一層高めていく必要がある。

そこで今年度は、これまでに築いてきた学びの基盤を生かし、算数科において数学的な見方・考え方を働かせることを軸とした授業づくりを一層推進していく。そのために、単元を通して働かせたい見方・考え方を明確にし、児童が既習や学習の足跡をもとに自ら活用できるような手立てを工夫するとともに、考えを比較・関連付けながら深めるための問いや教師の関わり方を全校で共有していく。また、個に応じた適用問題の充実や、アワ～ツタイムと授業とを往還させる指導の在り方についても改善を図り、児童一人一人が数学的な見方・考え方を働かせながら、考えることのよさや楽しさを実感できる授業の実現を目指す。

Ⅲ 研究全体構想図

